



代田 道子氏

—子どもたちとともに楽しみたい—

—家庭文庫について教えてください。

個人などが開いている私設図書館で、戦後まだ公共図書館が充実していない頃は、全国に6,000位ありました。個人が提供する家庭文庫と団体で運営する地域文庫があります。今は半数くらいになりました。

—やまびこ文庫の名前の由来を教えてください。

「おーい！この本おもしろいよ」と呼びかけて、やまびこのように答えて人が集まるように、という思いがありました。いずれ南信州の自宅で開いてもいいと考えて、アルプスの山々にこだまする場所として名付けました。

—やまびこ文庫はどんなところですか。

毎週木曜日の午後2時から午後5時位まで自宅の一階をやまびこ文庫として開放しています。1回に集まる人数は10人～30人位までその時々、季節で違います。子どもと大人と半数の参加です。本の貸出はもちろん、読み聞かせやおはなしを1時間くらいして、そのあとは工作や折り紙、科学あそびやカルタなどもしています。無料で、どなたが来てもいいところ。大人に向けて参加者にはお知らせなどのメール配信をしています。

—はじめられたきっかけを教えてください。

自分の子どもが幼い頃には、国立の水よう文庫やふたば文庫が閉じられた頃でしたから、国分寺の文庫に約10年間親子で通いました。

二人の子どもが小学生になり、愛知県の中学生のいじめによる自殺報道に触れ、子どもの気持ちはこんなにもすさみ、追い詰められているのかという衝撃を受けました。親はこんな時代にどんな子育てをすればいいのだろう。地域の親や子どもともっと語りたい、少しずつでも変わっていけないだろうか、ささやかでも一歩を踏み出そうと文庫を開きました。

—読み聞かせやおはなしをするときのポイントはありますか。

読み聞かせの場合、アナウンサーのような技術はいりません。聞いてくれる子どもたちがいて、誠実な読み手がいて、きちんとお話が届けばいい、共に楽しむことができればいいと思います。絵本は定番のものを、昔話は語りで、さらに自然科学の本も読んだり、紹介したりしてきました。本読みを教育の手段にはしない、純粋に楽しむということが大切だと考えています。

—文庫の魅力を教えてください。

文庫は本のある遊び場です。学校でもなく塾でもなく、規則もありません。来てもいいし来なくてもいい場所。毎回1時間のおはなし会を参加者と楽しめます。季節のたよりから始まり、絵本、語り、わらべ歌、などなど、ブックトークなどをたっぷり。その後は、工作をしたりおやつを食べたり。子どもたちは、素直に楽しむこと、工夫すること、我慢すること、人に譲ることなど、人との付き合い方も自然に学んでいきます。また、「より良い子育てをしたい」という母親父親にとっては、本や遊びの情報だけでなく、子育てしながら自分も一緒に育っていくことが出来る場だと感じています。

今までやまびこ文庫は0歳から80代の方までが来ていただきました。時には海外のお客様も。「持ち寄り」と分け合い」でやってきました。世話人の一人がやまびこ文庫は「あ・か・さ・た・な」と言ってくれました。

あたたかく(温かく)
かていてきて(家庭的で)
さりげなく(さりげなく)
たのしく(楽しく)
なかみがこい！(中身が濃い)



今後もこの形で続けることができたらと思っています。



代田 道子(しろた みちこ)氏

大学卒業後、東京都立高校国語教師、国立市私立小学校教員などを12年間務める。子育ての中で子どもの本の魅力を知る。平成6年から「やまびこ文庫」をはじめ、現在24年目。この間「科学読物研究会」「子どもと科学をつなぐ会」などで科学の本の講座、化学あそび、科学の本の紹介などを出版。国立市図書館協議会委員、国立市民生児童委員なども務めながら、子どもや大人たちと子どもの本を楽しんできた。

現在、日本親子読書センター代表、子どもと科学をつなぐ会代表、国際子ども図書館を考える全国連絡会運営委員、学校図書館委員会委員。